

平成30年度 第2回小田原市社会教育委員会会議概要

- 1 日 時：平成30年8月22日（水）14：00～16：00
- 2 会 場：小田原市役所 議会全員協議会室
- 3 委 員：木村議長、笹井副議長、有賀委員、岩瀬委員、齊藤委員、佐久間委員、高橋委員、深野委員、星寄委員、眞壁委員、益田委員
- 4 職 員：栢沼教育長、安藤文化部長、石川文化部副部長、遠藤文化部副部長、大島文化部管理監、樋口生涯学習課長、湯浅生涯学習課副課長、飯田生涯学習係長、鈴木文化財課長、古矢図書館長、尾沢スポーツ課長、北村子ども青少年部長、中津川子ども青少年部副部長、吉野青少年課長（事務局）石井生涯学習係長、相澤主査

5 傍聴者：なし

6 概 要

1 委嘱状交付

栢沼教育長から委員に委嘱状を交付した。

2 教育長挨拶

栢沼教育長が挨拶をした。

3 委員紹介及び職員紹介

資料1の名簿順に委員が自己紹介をし、次に職員が自己紹介をした。

4 正副議長の選任

仮議長に文化部長を立て、議長、副議長を選出した。

【仮 議 長】 正副議長は、小田原市社会教育委員会議規則第2条により、「委員の互選による」となっているが、選出方法等ご意見を伺いたい。

【深野委員】 事務局案は何かあるか。

【生涯学習課長】 事務局案としては、議長には前任期の会議でも議長を務められ、活発な意見交換を経て提言書を取りまとめていただいた木村委員に引き続きお願いできればと考えている。また、副議長には、社会教育・生涯学習分野を専門として研究し、前任期の会議でも的確なご発言をされた笹井委員が適任ではないかと考える。

【仮 議 長】 事務局から、議長に木村委員、副議長に笹井委員という提案があったが、いかがか。

(「異議なし」の発声あり)

【 仮 議 長 】 木村委員については、ご承諾いただけるか。

(木村委員承諾)

【 仮 議 長 】 笹井委員は後ほどお越しになるとのことであるので、到着し次第確認させていただく。ご承諾をいただいたので、議長を木村委員にお願いすることで決定させていただく。議長が決まったので、これからの議事の進行を、木村委員にお願いしたい。

(報告事項(2)図書館の運営について、非公開にするとともに、進行の順番を最後に入れ替えたい旨図書館長より説明、了承を得た。)

5 報告事項

(1) 平成30年度主要な社会教育施策について

資料2に沿って順次所管課長が報告をした。

笹井委員が到着、文化部長から副議長にお願いしたい旨説明し、了承を得た。

【 深 野 委 員 】 資料2の18番、指導者養成研修事業というのは、参加者は何人くらいか。何年か継続している事業だと思うが、過去と合わせのべ何人くらいなのか。

【 青少年課長 】 こちらは平成22年から実施している事業である。講座の内容にもよるが、各回10数名から20名の間で参加していただいている。のべ人数については手元に資料がないため何人とは申し上げられないが、こういった方が、体験型事業に指導者として参加していただいている。登録制ではないが、そのような事業に協力いただいている方は、名簿上で70名ほどいる。

【 益 田 委 員 】 資料2の21番、地域体験学習事業について、平成30年は一地区で実施と書いてあるが、これは市が地域を特定して実施するのか、地域の方からこれをやりたいと聞くのか、どのように開催しているのか。

【 青少年課長 】 後者である。地域の方からこういう体験学習を行いたいので指導者を派遣してもらえないか、こういったところで支援してもらえないか等のお話があった時に、青少年課がお手伝いをし、実施している事業である。

6 協議事項

(1) 附属機関への委員の推薦について

資料4に沿って生涯学習課長から説明をした。小田原市青少年問題協議会委員につい

ては高橋委員にお願いをすることで了承を得た。

(2) 平成31年度神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会について
資料5に沿って生涯学習課長から説明をした。

【有賀委員】 事例発表の時間は大体何分くらいか。

【生涯学習課長】 全体のバランスで、研究会自体を2時間にするのか、3時間にするのかという問題があるが、他市の事例を見て、2・30分程度を見込んでいる。今年11月に茅ヶ崎で地区研究会があるので、そこでの運営の方法等を見て行きたいと思っているが、今の時点では、20分から30分を想定している。

【深野委員】 神奈川県社会教育委員連絡協議会の研修会や地区研究会に出席していると、比較的小さな町や村では、社会教育委員が集まって何かをするという事例発表が多い。振り返って、小田原市の社会教育委員会議の活動を見ると、社会教育委員会議として、何かをやっているというのがない。都市の規模により会議の進め方が違うのだろうと思う。また、社会教育委員の構成も違っており、単純には比較できないと思うし、それぞれの特徴を出した方がいいのかなと思う。真鶴町の委員の話の話を聞くと、社会教育委員だけでいろいろと活動されている事例を聞いた。そういう意味で言うと、今回の事例案は、小田原らしい取組が表れているのかなと思う。ただ、このテーマだと、市がやっていることと、社会教育委員会議がどういう関係なのかわからない、伝わらない可能性がある。その切り口をきちんと提示しておいた方がよい。

【木村議長】 来年11月とはいえ、すぐに研究会が来てしまう。今深野委員が言ったように、切り口はたくさんあると思う。確かに社会教育委員会議として何をしているかと言えば、座学が多く、ここで会議をするのが小田原方式になっている。どこかへ行って研修しようということもない。そう考えると、ここにある講演と事例発表は小田原独自のやり方でいくのがいいのかなとは思っている。発表される先生方には、楽しい発表をお願いしたい。これについては、今日ここで決めるのではなく、まだ今後も検討するというのでよいか。

【生涯学習課長】 今期の会議については、年3回を予定している。次回は、2月を予定しており、こちらの会議については例年どおり予算や補助金等をご審議いただきたい。今回の事例発表については、その次の5月の段階で、方向性をお示ししたい。当然研究会当日に初めてみなさんが発表内容について聞くのではなく、5月あるいは8月にみなさんのこれまでの活動や経験等様々な視点から発表内容についてご意見をいただきながら進めていきたいと考

えている。

- 【木村議長】 ある程度の内容が固まり次第また検討をするという形で進めていきたいと思うが、よろしいか。
- 【深野委員】 去年まで社会教育委員会議として提言書をまとめてきた。社会教育委員会議としてやったことといえば、提言書を作ったことしかない。これが活動だったと思う。案をまとめるときに、タイミングとしては合わないのだが、ストーリーとして、提言書の考え方が基本にあった上でこのような事業が展開しているという流れにさせていただけると、社会教育委員会議が個別の実働部隊ではなく、理念づくりをしているという位置づけができるので、よろしく願いたい。
- 【生涯学習課長】 おっしゃる通りである。官民協働による担い手育成事業もそうであるが、放課後子ども教室の取組についても、提言書の中に盛り込まれた学校と地域との連携ということがベースになっている取組として、そこを肉付けする形で取り組みたいと考えている。また、事例発表とは別に、今期の社会教育委員会議の役割について事務局として考えていることがある。キャンパスおだわら事業については、運営委員会を立ち上げていたが、現在休止中であるということで、特にキャンパスおだわら事業を中心に、社会教育委員会議において評価点検をしていくことも、今後お願いして予定である。
- 【齊藤委員】 官民協働によるまちづくり担い手育成事業の事例発表について指名をいただいた。発表を引き受けたいとは思っているが、自分は小田原の人間ではないというところがとても気になっている。小田原の歴史、文化、郷土といったものが、小田原のまちづくり事業の内容にも散在している。小田原にはこういう文化・歴史があり、子ども達や大人につないできていう部分を、事例発表のどこかに入れた方がよい。自分自身は、その部分については話せないということがはっきりしている。行ったことはないが、例えば5月の北条五代祭りなどは、すごい取組をやっている。それは社会教育の事業ではないが、そのように地域に繋がる文化や歴史を誇りに思う子どもたちや地域の人達を育てていくということが、この事業の中にかなり入っている。アトラクションとして見せるのかどうかはわからないが、この部分を飽きない程度にどこかにパフォーマンスとして見える化することが、小田原の街って面白いというPRになる。今小田原は箱根の通過点であるが、今後は国際拠点になりうる可能性があると思うので、未来が少し見えてくるような、そういうことがこのプログラムの中に入って行くといいなと思う。
- 【木村議長】 聞いているほうが飽きないように、そういう手法で行うのも手かもしれない。事務局とまた個別に調整しながら進めていきたいと思うので、よろ

しく願います。

- 【有賀委員】 事例発表の大体の構想を来年の5月までにまとめておけばよいということか。
- 【生涯学習課長】 11月が地区研究会の本番になる。逆算して考えて行くと、その前の8月に社会教育委員会議があるので、その時点でリハーサルを行う。さらにその前段階として5月には事例発表等の骨子ができているというスケジュール感になる。齊藤委員から提案があったところをどのような盛り込むのかということが、5月までに荒いレベルでできていればよいと思う。
- 【有賀委員】 平成31年度には、タイミングよく市内25校全ての小学校で放課後子ども教室が開設される。ただ、実際の開所はほぼ6月になる。5月の時点ではっきりしたことはまだ申し上げられないことが気になった。
- 【木村議長】 5月は社会教育委員会議内だけの話であるから、仮の形ということで、有賀委員の方である程度作っていただいたら、後は事務局とみなさんで考えながら進めていけばよいと思う。
- 【有賀委員】 次の会議は2月であるが、これから2月までの間に事務局といろいろな打ち合わせが入ってくるのか。
- 【生涯学習課長】 打ち合わせをしてもよいのだが、事務局としては2月の会議では、大枠でこのような流れでどうだろうかというざっくりばらんな意見交換程度でよいと考えている。
- 【益田委員】 ここ何年かで作ってきた答申において、基盤になっていたのは「小田原らしさ」であると思うので、地区研究会の発表にもそこは盛り込んでもらいたい。答申を作るということが、まさに小田原の社会教育委員会議の特色だと思う。他市町村の社会教育委員会議の話を聞くと、答申を作っているというところはなかなかなく、社会教育委員が実際に現場で活動しているところの方が多い。答申を作っているというのも小田原の特色だと思うので、そこも紹介して欲しい。
- 【齊藤委員】 先ほど議長が面白い事例発表をとおっしゃっていた。面白いものにするには、視覚から入るのが一番だと思う。視覚から入る手法として、アクションもあるのだが、映像という方法もある。いい写真をみなでコレクションする。みんなが生き生きとアクションしている姿は各事業に散っている。それを集めるのは意外と時間がかかるので、ぜひ皆さんがそれぞれもっている写真を集めて、視覚から展開しながら、事業の内容説明に移っていく方が見ている人は飽きないと思う。
- 【木村議長】 これまでの地区研究会を見ると、発表者が一方的に話すという印象だったので、視覚に訴える手法を取り入れると、違いがでる。ここも事務局と相談しながら、5月頃までにはある程度の骨子を決めて行きたいと思う。その他委員のみなさんから何かあるか。

- 【生涯学習課長】 事務局からであるが、有賀委員から事前にご自身で活動されている放課後子ども教室についての情報提供をしたいということで資料をお預かりしている。ここでお時間をいただければ配布をしたいと思うがいかがか。
- 【木村議長】 放課後子ども教室の資料については、今まではそのまま配っていたのであるが、ここでお諮りし、配布してよいということであれば事務局から配るといふ形にしたいと思うが、よろしいか。
- 【深野委員】 より積極的に言うならば、市から報告事項があるように、委員からそれぞれの活動で報告したいことがあれば、毎回そういう報告の場があるという風にした方がいいと思うがいかがか。
- 【木村議長】 それはよいと思う。市から一方的に報告されるのではなく、みなさんから自分が活動していることを報告するということがよいと思う。
- 【深野委員】 例えば、会議の次第で言うと、報告事項「平成30年度主要な社会教育施策」の次に、委員の個別の活動について等の項目もきちんと入れてしまえばよいのかなと思う。無ければ無いでよいのだが。
- 【木村議長】 次第に載せるかどうかは別として、その他としてでもよいので、みなさんが発表する時間があるのはよいことだと思う。では有賀委員の資料の配布をお願いします。

(資料配布、有賀委員から説明)

- 【木村議長】 他に事務局からあるか。

(次回の会議は2月を予定している旨説明)

報告事項(2)「図書館の運営について」
資料3に沿って図書館長が説明をした。

(非公開)

- 【木村議長】 発言も尽きたようなので、これをもって本日の社会教育委員会会議は閉会とさせていただきます。